

5—4. 冬期路面状況

■ 冬期路面の条件下における車内騒音・車内振動■

ランブルストリップスは、多少の積雪でも音と振動による効果を体感で確認することができる。冬期路面条件下で、車内騒音と車内振動を測定した結果、路面状態は、シャーベット状態であったが、センターラインは、全く見えない状況である。騒音の大きさは、通常の路面を走行すると約65dBであったものが、ランブルストリップス上を走行すると約80dBを記録した。また振動も約95dBから約100dBに大きくなり、シャーベット状の路面でセンターラインが見えない状況でも、車線を逸脱したことをドライバーに警告する効果があることが確認された（図5-5、写真5-8）。

その他、様々な冬期路面状態で測定した結果、シャーベットや圧雪という積雪状態の違いにより多少測定値に差異があったが、ランブルストリップスの効果は、いずれの状態でも確認できた。積雪寒冷地域において路面標示が雪で見えなくなった場合でも、車線逸脱を警告する効果があることを示している。

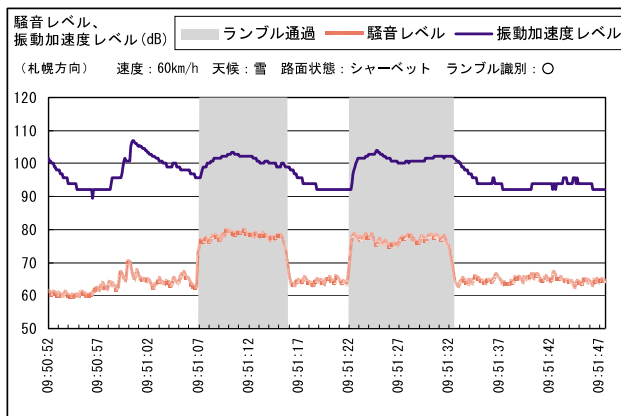


図5-5. 冬期路面条件下の音と振動の測定結果 (R274 日高町 H16.1.20)



写真5-8. 測定時の路面状況 (R274 日高町 H16.1.20)